

○熊参拾号 川口W邸

【外観】



【内観(音楽ホールとダイニング)】



【内観(音楽ホール)】



<撮影:淺川 敏>

▶建物概要

· 所 在 地:朝日6丁目

・主要用途:専用住宅(音楽ホール併設)

・構造等:木造2階建 ・延べ床面積: 182.13 ㎡

▶設計事務所

熊工房 (目黒区駒場 1-27-10)

●設計者

鶴田 伸介(つるた しんすけ/建築家)

受賞歴

2011年 東京建築士事務所協会主催 東京建築賞 2011

「熊参拾号 川口W邸」 戸建住宅部門優秀賞

2010年 東京ガス主催 住まいの環境デザインアワード 2010

「熊参拾号 川口W邸」 奨励賞

2000年 AMERICAN WOOD DESIGN AWARDS 2000 「奥津温泉 " 花美人の里 "」 入賞 APA 賞 SPC 賞

●設計コンセプト

住まいはそこに住まう人々の聖域です。建築の建つ場を取り巻く環境や、自 然との快い関係など住まう皆様のそれぞれの物語があります。

このストーリーを深く読み解いて、それぞれに個性豊かで自分達だけの心地 よい場所へと誘えればと思います。

本件につきましては、音楽家のお施主様より木造の音楽ホールがある住宅を お願いできますかとご依頼をいただき、アイディアと技術力でお施主様の想い を叶えてあげたいと挑戦いたしました。

●設計のこだわり

本格的な音楽ホールで心地良い響きを得るためには、相応な気積が不可欠で あり、そのためには、まず十分な高さを持つ空間を計画しました。発せられた 音が天井に当たり跳ね返ってくる間、広い範囲に音が拡散する仕掛けとして、 ホールの壁の曲面をなだらかにツイストさせました。この「ねじれ」が壁面に 反射する音の複雑な拡散を生み、コンサートホールの様な響きを再現できる手 法を取り入れました。

●エピソード

生徒さんからは、「普通の防音室と比べてリラックスしながら敏感に音と向 き合える。|「木に囲まれた静謐な空気の中、1つの音をより研ぎ澄まさせたく なる。」と高評をいただいてます。

《参考》作品例

"花美人の里"(岡山県) ○奥津温泉









建築デザイン

部門







<撮影:淺川 敏>

○巣鴨信用金庫 中青木支店

【外観】







【内観】





<撮影:ナカサ&バートナーズ>

《参考》作品例

○志村支店



○江古田支店

<撮影:ナカサ & パートナーズ>



○常盤台支店



○新座支店



<撮影:永石 秀彦>

●建物概要

·所 在 地:上青木1丁目1-1

・主要用途:信用金庫・構造等:鉄骨造2階建・延べ面積:588.07㎡

●設計事務所

エマニュエル・ムホー アーキテクチャー+デザイン

(千代田区内神田 1-14-14 東運協ビル 3F)



●設計者

エマニュエル・ムホー (東京在住フランス人建築家)

●受賞歴(一部)

2015 年 スペースデザインコンテスト グランプリ(日) 巣鴨信用金庫 江古田支店

2015年 スペースデザインコンテスト 部門賞 公共生活空間(日)

巣鴨信用金庫 中青木支店 2014年 DEDALO MINOSSE INTERNATIONAL PRIZE Under40(伊)

2014年 DEDALO MINOSSE INTERNATIONAL PRIZE OFICE 40 巣鴨信用金庫 シリーズ

2014年 International Design Awards Silver(米)

巣鴨信用金庫江古田支店

●設計コンセプト

巣鴨信用金庫においては、「喜ばれることを喜びに」をモットーに「ホスピタリティバンク」を目指しており、「一秒でも長く居たくなる信用金庫」をコンセプトとする設計をエマニュエル・ムホー氏に依頼し、「巣鴨シリーズ」と呼ばれる店舗づくりを進めております。また、中青木支店においては、シリーズ5番目の店舗になります。

●設計のこだわり

当支店は、県道と市道が交わる交差点の角地にあり、多くの人々が様々な視点から望むことのできる立地を特徴として捉え、変化する視点によって表情が豊かに変わるリズミカルなファサードをつくりあげました。

ファサードは4種類の奥行から成るCUBEで構成しており、CUBEには24色を使用し、視点によって色が現れたり、消えたり、重なったり、見え方が様々に変化するよう配置しております。また、12個のCUBEには小さな空中庭園を設け、季節の花々や木々で彩っており、CUBEがつくる凹凸から見え隠れする色と草木が、音楽の音符のように楽しそうに浮かび、虹色のメロディとなって、支店を目にする人々に癒しと元気を届けることを目指しました。

店内につきましては、庭の表情を別の視点で望むことができ、また、南に面するファサードから入る日差しは木々によって和らぎ、心地良い木漏れ日となり、動きのある外観とは対照的に落ち着いた雰囲気に仕上げております。

●エピソード

建設中は「できるのは幼稚園?保育園?デザイナーズマンション?」など、近所の方によくご質問されました。また、エマニュエル氏の起用につきましては、当信用金庫がエマニュエル氏デザインのABCクッキングスタジオを見て感銘を受け、お声を掛けさせていただきました。

《参考》 ○ABCクッキングアリオ川口スタジオ 作品例



○ABCクッキング沼津イーラdeスタジオ



<撮影:永石 秀彦>

○ますいいハウス

【外観】



●建物概要

· 所 在 地:中青木3丁目2-5 ·主要用途:事務所併用住宅

·構造等:鉄骨造(一部木造)3階建

・延べ面積: 149.34 ㎡

〕設計事務所

石山修武研究室

《協働》

(有)ますいいリビングカンパニー (川口市中青木 3-2-5)

建築デザイン 部門

【外観(施工中)】



●設計者

石山 修武(いしやま おさむ/建築家)

●受賞歴(一部)

2002年 芸術選奨文部科学大臣賞(世田谷村)

1999 年 織部賞

1998年 日本文化デザイン賞

1996年 ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展

金獅子賞(瓦礫の散乱する廃墟)

1995年 日本建築学会賞作品賞(リアス・アーク美術館)

1985年 吉田五十八賞(伊豆の長八美術館)



【外観(階段部)】



●設計コンセプト

当社の建築に対する熱い思いや取り組み、また、技術があれば様々な形態 の建築も可能であり、お施主様の多様なご要望にも応えることができること など、建築が与える素晴らしさや可能性を人々に伝えられる様な形を社屋の デザインに表現できないものかと石山修武研究室の方々と協働でデザインい たしました。

●エピソード

当社では「お施主様自らが設計や施工 くりになればと取り組んでいます。

に積極的に参加していくこと」をモッ トーに専門的な知識や技術の不要な部 分については、お施主様が参加するこ とにより、設計上での細かい要望の把 握やコストの削減を図り、さらにはお 施主様が建物に愛着を抱くキッカケづ



●設計のこだわり

よくご質問を受けます3階の床の構造につきましては、ちょうど「ヤジロ ベエ」のような構造となっておりまして、鉄骨で組まれた3Fの床を中央の フレームのみで支持し、突出部の先端に取り付けているワイヤーを地上で固 定することで、安定する設計となっております。

また、建物の配置計画につきましては、人通りが多い道路に面している三 角地という立地条件を特性として活かし、突出部を交差点側に向けることに より、建物の存在感がより強調される効果を考えました。

●エピソード

今でも建物については「何で倒れないの?」とよくご質問を受けることがあ ります。また、このデザインが話題になり、他の事務所で断られるような難 しい設計の依頼が多くあります。なお、社名の「ますいいリビングカンパニー」 の一文字多い[い]につきましては、恩師の[石山 修武]先生の志を受け継ぐ べく、社名に「い」を加えました。これは疑問を持った人から質問される度 に石山先生の志を広めることを目的にしております。

《参考》作品例(예ますいいリビングカンパニー)

○西立野の家(川口市内)





○2つの中庭のある家(川口市内)





●SHO-AN2 (ショーアンツー)

【外観】 改修前





【内観】 改修前



改修後







●建物概要

· 所 在 地:幸町1丁目4-4

・店舗種別:カフェ

· 出店時期: 平成 25 年 10 月 · 建物築年: 昭和 45 年頃

・以前の店舗: 質店



●オーナーシェフ

杉山 祥秀(すぎやま よしひで)

1965年北海道生まれ。札幌の洋食屋でのアルバイトから料理人の道に入りましたが、一時期体調を崩したことをきっかけに、からだにやさしい食とはなにかを追求し雑穀米と出会いました。

食材にこだわり、お客様に安心・安全な料理を楽しんでいただきたいと、「SHO-AN」(幸町3-8-7)を、さらに2号店となる「SHO-AN2」をオープンしました。お客様にゆっくりくつろいでいただくことを最優先に、日々精進を重ねております。



●今の場所を決めた理由

20年前から14年間、デパートの飲食店の企画や経営に携わる仕事に従事し、自身でも川口市近辺で自ら企画・経営することに興味があり、6年前から古い建物を改造した飲食店(ショーアン1号店)をはじめ、戸田市などにも店舗を展開し、他に現在4店舗の企画・経営(社名:祥エステートオフィス㈱)をしております。当店舗につきましては、売り出されていたことを不動産業を経営している妻が見付け、また、近所の友人の勧めや躯体等がしっかりしていたこともあり購入・出店しました。

●店名の由来

店名は知合いのミュージシャンに付けてもらいました。「SHO」はオーナーの「杉山 祥秀」の「祥(ショウ)」からとり、「AN」は漢字の「庵」から由来しています。なお、「2」につきましては、「ショーアン」以外の名前を考えましたが、結局、「2」としました。

●設計コンセプト

食事をするだけでなく、お店の中にいるだけで都会の喧騒を忘れさせる様な「心が安らげる空間づくり」と併せて「心が和む昔の空気が漂う心地の良い雰囲気」、また、大人の遊び心をくすぐる「秘密基地的な存在」になる様なイメージで設計しました。

●設計上のこだわり

デザインはオーナー自身の経験と感覚・アイディアを駆使し、古い部分を「古き良いデザインとして利用し演出する」にこだわり、設計の際には何度も模型を作り、また、施工の過程においても現場を止めながらデザイン設計を煮詰めました。そのため、開店までに半年以上の月日を要しましたが、内部は勿論、外壁塗装におきましても「古さの良さ」を演出するために単調な全塗装とせずに部分的なものとしました。なお、専門知識を必要とするライトアップにつきましては照明の専門家である知人に依頼しました。またオープンの後も、店内を常にディズニーランドの様に常に変化・進化させる工夫にこだわり、特にインテリア(花や家具、アンティーク等)の入れ替えも頻繁に行い、お客様が何回来店されても、見ていてストーリーが生まれる様なものを選んで置いており、置き方についても空間に変化が生まれる様な配置にこだわっております。

●出店して良かったところ

古い建物の「古さの良さ(昭和30年代の力強さと当時の黄昏を思わせる和む空間)」を最大限に引き出した満足できるお店ができました。改修においてはかなりの負担もありましたが、新規物件の出店に比べると抑えられ、その分を商品に還元することができ、お客様にも喜ばれております。

● Chant d' Oiseau (シャンドワゾー)

【外観(建物全体)】



【外観(店舗部分)】





改修後



【看板】



【内観】

●建物概要

· 所 在 地: 幸町 1 丁目 1-26

·店舗種別:洋菓子店

· 出店時期: 平成 22 年 10 月 · 建物築年: 昭和 46 年頃

・以前の店舗:機械・工具等を取扱うお店



●オーナーシェフ

村山 太一(むらやま たいち)

大宮市生まれ。春日部市のパティスリーシェーヌに5年勤めた後、浦和のパティスリーアカシエのオープニングスタッフとして1年勤務。後にベルギーのパティスリーyasushisasakiとベルギーの老舗ショコラトリーで経験を積み、帰国後1年の準備期間を経て2010年10月にシャンドワゾーを開業しました。



●今の場所を決めた理由

大宮生まれで、地元に店を持ちたいと思っていました。川口市は都内に通勤する住人も多く、都心のデパ地下や有名店でお菓子を購入したりする消費志向のある人達が多いことから、自分の作るお菓子はそういうライフスタイルの方に受け入れてくれやすいかと思ったことと、都心に近く目と舌の肥えているお客様に対し、本当に良いものを価格を抑えて提供したいとの思いがあり出店を決めました。

●店名の由来

Chant d'Oiseau(シャンドワゾー)とは、"シャンドワゾー教会"や"シャンドワゾー通り"といった、ベルギー時代に勤務していたブリュッセルの地名が由来で、Chant d'Oiseau はフランス語で"鳥のさえずり"という意味になります。

●設計コンセプト

外観は、パリの化粧品店をイメージした上品で落ち着きのあるデザインとし、 内観は、シックでスタイリッシュな白を基調とした落ち着いた雰囲気となる様 なイメージをコンセプトとしました。

●設計上のこだわり

店の内観や外観など、直接フランスの化粧品店に赴き、(窓の大きさから部材の材質まで)研究し、デザイン事務所に細かく指示しました。

また、ケーキの商品ケースにつきましても、フランスの宝石店に赴き、ショーケース(高さ、大きさ、照明等)を研究し、特注で作成しました。

●出店して良かったところ

自分のイメージしていた商品を演出できる最高のお店ができたと思っております。仮にデバ地下に出店した場合、色々と制約される部分が発生し、今の様なお店にすることはできなかったと思います。また、リノベーションの利点を活かしてコストを抑え、その分をお客様に還元することができ、お客様にも喜ばれております。





PRossi Café (□ッシ カフェ)

【外観】



【外観(店舗部分)】 改修前



改修後







●建物概要

· 所 在 地: 幸町 1 丁目 1-22

・店舗種別:カフェ

・出店時期:平成27年1月・建物築年:昭和50年頃・以前の店舗:和服店



●オーナーシェフ

山﨑 浩司(やまさき ひろし)

長年に渡り、洋食(フランス料理やイタリア料理等)に携わってきました。本店(レストランロッシ:幸町3-7-31 川口センターホテル1F)において本格派フランス料理やイタリアン料理の提供を行ってきました。ロッシカフェについては、色々な年齢層のお客様に気軽にご利用できるようなカフェとしてのお店づくりやテイクアウト商品の販売展開にも挑戦しています。



●今の場所を決めた理由

人通りのある立地でカフェやテイクアウトの販売も行う事業を拡大させたいという思いがあり、また、当店が本店とも近い距離にあるため、連携して様々なお客様に対応できるようなサービスができないかと考えておりました。偶然、大家さんからのお勧めがあったことと、建物の躯体がしっかりしていたこともあり、出店を決めました。

●店名の由来

オーナーの名前(ヒロシ)から付けた名前となっております。

●設計コンセプト

外観は、パリの裏路地にあるようなお洒落なお店で、オーナー自身が好む情熱的で上品な赤を基調としたデザインとしました。また、内観につきましては、「カジュアルで落ち着いた空間」をコンセプトにしました。

●設計上のこだわり

入口部分の赤色の看板やガラス面のファサードについては、通りを歩く人などの視線の動きを計算した形としました。

また、内観につきましては、有機物(木)と無機質(RC やコンクリートブロック等)の組み合わせによる新鮮な感覚を演出し、既存の躯体で「古き良いデザイン」に活かせる部分は極力利用しました。

●出店して良かったところ

工夫次第で建物の古い部分もデザインの一部としてお洒落感を演出できました。また、リノベーションにより設備投資が抑えられ、その分を商品に還元でき、お客様にも喜ばれております。

【内観】







◎各建物の案内マップ



◎「才職建美」について

「才色兼備」、その言葉は一般的に知性と美貌を兼ね備えた女性に使われる言葉です。 このことは建物にも共通し、「才覚」があり、建物の設計や起業を「職」とする者が手掛ける 「建物」の外観は勿論、内部の計画やデザインにおいても優れた「美」を演出し、人やまちに 魅力や潤いを与えます。我々はこれを「才職建美」と呼称しております。

◎企画の目的について

この企画は「人と建物デザインのかかわり合い」というテーマを軸に市内の「広げたい空間」、「真似したい空間」を情報発信・集積・交換を行うことにより、「人が集うまちの活性化」を目指し、「市内全体の空間の質の向上」を図ることを目的としております。

◎ロコミ情報の募集について

「自分がデザインした建物を見てほしい!」や「近所にこんなお洒落なお店があり取材してほしい!」という物件のロコミ情報を自薦・他薦を問わず募集しております。下記アドレスまでお気軽にご投稿をお願い致します。なお、建物デザインをメインとした企画のため、食事のメニューや商品の紹介等は掲載することを控えさせていただきます。また、企画相応のデザイン等を募集しておりますのでご了承願います。

メールアドレス: keikan.design@city.kawaguchi.lg.jp

川口市役所 都市計画課